

(一社) 全国ラムネ協会

ラムネ（飲料）等

基本情報

対象国	アメリカ他40ヶ国	輸出額	79億円（2月末）	加盟者数	33社
主な販売先	小売・国内商社	活動地域	全国	品目数	単一
希望スキーム	間接輸出	備考	-		

海外での和食の評価向上に合わせ、日本製の質の高い飲料を発信して需要を拡大

日本食が世界的に高い関心を得てきている機運を逃さず、クラスター内の事業者間で設備貸与やナレッジの共有等を行い、国内商社と提携して日本製の質の高い飲料を日本食と一緒に販売することで需要・商流を拡大している。

団体概要

所在地	東京都千代田区
設立年	2022年（1995年-任意団体として活動）
事業内容	ラムネの造技術改善・品質向上 ・経営の合理化・研究指導等
認証取得	-
生産規模	-



取組の経緯 / 概要

- ・国の補助金を活用し、専用設備の整備と協会加盟製造企業での生産体制を構築することで、設備貸与やナレッジの共有等により会員の輸出取組に関するボトムアップが必要・各国のレギュレーションやチャネルに関するノウハウ不足等の課題を解決する。
- ・国の掲げる食品の輸出目標に対しての加速力を付けるため、近年顕著に輸出実績を伸ばしている加工食品（飲料）である「ラムネ」の供給能力を強化するとともに、全国ラムネ協会に加盟する中小製造業が抱える問題解決および活性化を図り、北米・欧州・豪州・アジアをはじめとした多くの地域に現地のレギュレーションに沿った日本の伝統的飲料である「ラムネ」をより拡大し、他の国産食品や文化等とのシナジーの場を創出する。

取組の成果

- ・輸出額：77億円（2021年）→79億円（2022年度2月末）→154億円（2025年度目標）
- ・生産量：1億1,000万本（2021年）→1億1,300万本（2022年度2月末）

取組のポイント

日本産ラムネの品質の高さを訴求し、供給力を強化して増加ニーズに応える形で更なる輸出促進を図る

輸出を進める上で抱えていた課題

TASK

課題

1

輸出ラムネの生産体制の増強・設備導入の増強する必要がある

TASK

課題

2

各国レギュレーションやチャネルに関するノウハウ不足を解消する必要がある

TASK

課題

3

新規取扱販売店や新規拡大エリアも多く年々需要が高まり、需給バランスが乱れている

輸出成功のポイント

補助金を活用して設備投資・生産体制の強化

設備費用の半額を補助金によって賄うことで、中小企業でも設備投資を可能にし、生産体制を強化

海外ニーズや日本のラムネの優位性の研究

他国のラムネとの差別化・日本ブランドの優位性を確立するため、団体内で認証取得の呼びかけ等優位性の確立を推進

機会損失をなくすために事業者間で協力して供給力を高める

海外ニーズの増加に追い付くため、組合員のリレーションを活かし、販売チャネルやビンやビー玉等の資材の確保に尽力

サプライチェーン別取組

現地ニーズを踏まえた商品開発

- 海外のレギュレーションに沿った製品製造のための設備(キャップ製造機・一体型充填機)を調達し、協会から協会員に貸与することで、生産量拡大が可能な基盤整備

ノウハウ・チャネルの共有による商流拡大

- 輸出実績を上げている協会員が、今後輸出を強化したい協会員と販売チャネルやOEM受託などで連携し、輸出ノウハウを共有し、協会員全体の輸出拡大に繋げる

高品質な日本ブランドの訴求

- 世界でも一部ラムネを生産している国もあるが、安心安全の打栓式ラムネという日本ラムネの強みで台湾ラムネ・インドラムネとの差別化を図る取組を実施する

商品開発

流通

販売

今後の輸出拡大に向けて

補助事業での取組でビー玉付きキャップ等の整備や製造業者の近代化は比較的進んでいる。現在在庫が少ないビンの確保に対応し、需要過多の間に値上げ交渉をして生産性を上げる。合わせてビー玉の玉付きキャップの整備及び製造業者の近代化も更に推進することで、多角的かつ総合的な供給力の向上を図り、2025年までに生産量及び輸出額を倍増させる。